

平成30年度



白川小だより

第6号 平成30年8月29日(水)

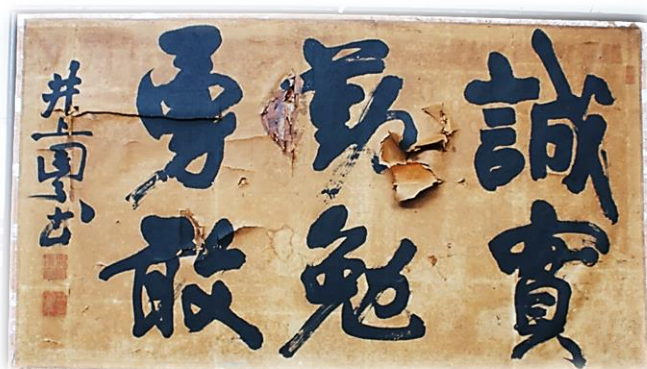
校訓「誠実 勤勉 勇敢」 ～2学期に向けて～

校長 奥村 哲也

子ども達が夏休みの課題として取り組んだ研究や工作などの作品が学校に運ばれてきています。子ども達は、この夏、宝物作りに一生懸命努力したことでしょう。作品展が楽しみです。

さて、子ども達の力作には及びませんが、この場を借りて、私の夏休みの自由研究の成果を報告させていただきます。研究テーマは、「校訓について」。

校長室に「誠実 勤勉 勇敢」と書かれた大きな額があります。調べてみると、「この校訓は、明治43年(1910年)に当時の田原栄一郎校長が定め、長く引き継がれて、本校の指針となってきた(『開校百年誌』)」とあります。本校の校訓は108年もの歴史をもっていることが分かりました。また、「校訓の扁額は、昭和45年に校舎の建築記念として、所正直指導主事(当時)の手によって書かれ、校長室に掲げられた」とあり、さらに、この扁額は2代目であり、初代の扁額が「郷土室」にあることが分かりました。郷土室に行くと廊下側の壁に初代扁額が掲げてありました(写真)。そして、その説明書に「この扁額は、明治43年に本校の校訓が制定されたときに書かれたものである。揮毫した井上圓了氏については記録がないのでつまびらかでない。」とありました。「井上圓了」といえば、妖怪学で有名な哲学者であり東洋大学の創始者です。



「明治の偉人である井上圓了と白川小学校にどんな接点があったのだろうか」と不思議に思いました。そこで、詳しく調べてみると、どうやら当時、井上氏は、講演しながら全国各地を巡っていたようです。その記録が残されている『南船北馬集』をひもとくと、明治43年9月13日に「西白川村字和泉に至る」とあり、14日には、「新田村長、加藤県議、田原校長諸氏の発起にて講演会を催した」と記されていました。井上氏は、全国巡講の途中で白川に立ち寄り、田原校長等諸氏の依頼を受け、この校訓を揮毫したものと察せられます。東洋大学井上円了博物館学芸員の北田氏に写真を見ていただいたところ、「井上円了は、書作品や著作の中で『誠実』『勤勉』『奮闘』『活動』などの言葉を好んで用いています。ですので、円了も貴校の校訓に共感しつつ揮毫したのではないのでしょうか。画面の日焼けと破損は、本学の学祖の書が、貴校の児童と先生方の活動を見守ってきた証ですので、関係者として嬉しくもあります。地域と小学校の宝として大切に伝えていただければありがたいです。」と言葉を寄せてくださいました。もしかしたら井上氏が校訓の制定にも関わっていたのではないかと想像しましたが、記録がないので定かではありません。何かご存じの方がいましたらご教示いただけたら幸いです。

さて、2学期が始まります。2学期も、「流れ続く伝統」を引き継ぎながら、「自ら考え表現する子〔勤勉〕」、「温かく広い心をもつ子〔誠実〕」、「最後までやり抜く子〔勇敢〕」の育成をめざして精一杯努めて参ります。ご理解、ご協力をお願いします。